

これまでの取り組み（震災伝承の現状）

※これまでの提供情報等を参考にとりまとめ

- ・ **震災遺構**
旧門脇小学校校舎、大川小学校旧校舎、観慶丸商店、旧石巻ハリストス正教会教会堂、中瀬北地区(秋葉神社跡)、住吉公園（雄島）巻き石、旧東北実業銀行石巻支店、本間家土蔵
- ・ **メモリアルパーク**
石巻南浜津波復興祈念公園
- ・ **伝承・展示施設**
石巻市復興まちづくり情報交流館（中央館・牡鹿館・雄勝館、北上館、河北館）、水辺の復興みらい館、石巻魚市場、防災センター、つなぐ館、絆の駅 石巻ニューゼ、本間家土蔵、「がんばろう！石巻」看板、南浜つなぐ館、3.11 あすのためのミュージアム
- ・ **慰霊碑・モニュメント**
※震災復興基本計画実施計画の重点プロジェクト「未来への伝承プロジェクト」に慰霊碑(モニュメント)建立事業を位置付けている。
- ・ **津波浸水深表示板**
石巻市内に 64 箇所、77 枚設置
- ・ **教育・学習**
石巻市防災副読本「未来へつなぐ」、宮城県防災副読本「未来へのきずな」
- ・ **避難訓練などの防災に関する活動**
石巻市総合防災訓練、自主防災組織（設置推奨）
- ・ **追悼・復興に関する式典等**
東日本大震災石巻市追悼式、石巻復興マラソン
- ・ **ITを活用した記録・アーカイブ**
東日本大震災アーカイブ 宮城（石巻市）
- ・ **語り部、被災地ガイド**
NPO 等団体、個人が市内各地で活動
- ・ **震災、復興に関する行事**
石巻川開き祭り、被災野に大きな花アート、ツール・ド・東北、東日本大震災追悼3.11 のつどい

震災伝承の考え方

※これまでのご意見を参考にとりまとめ

世界中で自然災害が頻発し、今後も大規模災害の発生が予想される中で、災害で命を落とす人、それによって悲しむ人を一人でも減らすために、東日本大震災で多くの犠牲を出した石巻において震災の事実、教訓、体験、思い等を伝えていく。

基本理念

伝える、守る

石巻市民や国内外の人々へ伝えるとともに、将来の世代に向けて、50年、100年先まで東日本大震災を伝えていく。いつかまた大きな災害が起こったときに一つでも多くの命を守るために、思いと覚悟を持って後世まで伝えつないでいく。

学ぶ、行動する

自然災害の発生自体を防ぐことはできないが、人の心がけや対策、努力によって被害を減らすことはできる。防災意識を育み、災害発生時に自他の命を守る行動につながるよう、一人一人が自然災害を自分事として捉え、主体的に学び考えるための場やきっかけをつくる。

基本方針

何を伝えるか

○広域で多様な被災地域とそれぞれに異なる被災状況、震災前後の出来事、思いなど、震災を巡るたくさんの方のことを、そのまま丸ごと伝えていく。

誰に伝えるか

○これからの世界を生きる日本中、世界中の人々のより良い暮らしにつながるように世界規模で発信する。
○家庭、学校、職場、町内会など様々なレベルのコミュニティにおいて、震災伝承に取り組み、防災について考えていく。

どうやって伝えるか

○伝承の受け手の多様なニーズにも配慮し、遺構や展示施設などのハードと、人の語りや案内、交流といったソフトの手法を複合的に用いて伝えていく。
○新たな担い手を育て次の世代につなげるしくみ、地域に根差し地域のまちづくりにもつながるしくみをつくり、それを支えていく。

※関連計画等の目標や理念、事業内容との関係を整理
・石巻市震災復興基本計画（及び実施計画）
…「災害に強いまちづくり」に資する震災伝承
・震災遺構整備計画（大川小学校旧校舎、旧門脇小学校校舎）
・石巻南浜津波復興祈念公園基本計画
（市民活動拠点「参加型維持管理運営」検討協議会・伝承部会）
…祈念公園や中核的施設と連携した震災伝承
・石巻市民憲章

これからの取り組み

■伝承する内容

※これまでのご意見を参考にとりまとめ

- ・震災前の地理、歴史、生活、防災
- ・津波被害（被害の状況、津波火災、河川遡上など）
- ・震災の教訓（失敗も含めて）
- ・震災直後の状況（災害医療、支援、避難所生活など）
- ・復旧・復興や震災後の防災の取り組み
- ・命の大切さ

■伝承の方法

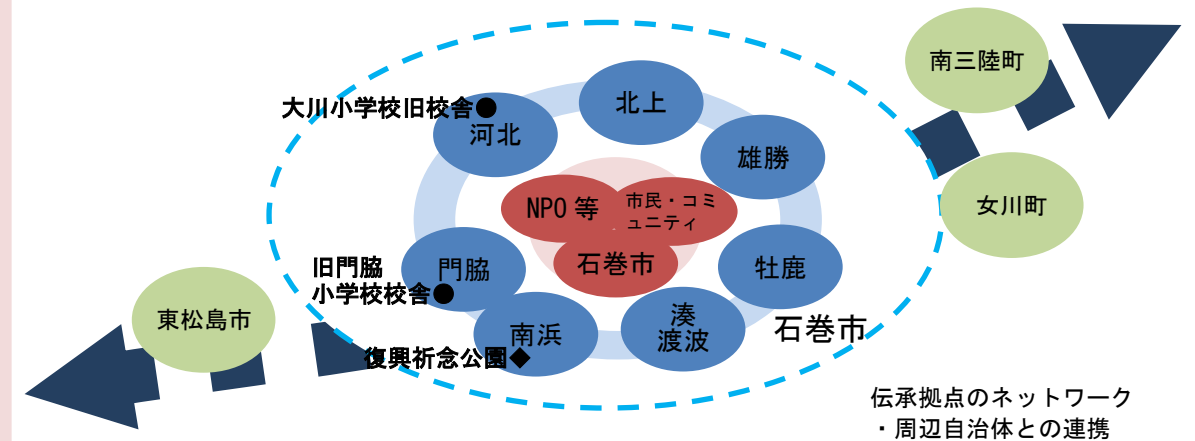
※これまでのご意見を参考にとりまとめ

- ・学校教育の中で伝える
- ・建造物で伝える（震災遺構、記念碑など）
- ・現物資料で伝える
- ・デジタルメディアで伝える（映像、アプリなど）
- ・語りで伝える（語り部講話、防災講義など）
- ・行事で伝える
- ・震災時の体験を再現する（疑似体験）
- ・地理的情報と併せて伝える（地図、模型などを活用）
- ・情報収集、記録、保存する

■震災伝承の体制

※今後議論を深めたい事項

- ・多様な震災伝承の取り組みを継続的に支えていくための体制構築が必要である。行政と民間の協力の下、様々な立場の関係者の協働により、震災伝承を担う専門性のある組織の構築に向けて検討を行う。
- ・既存の施設も活用しながら、震災伝承拠点のネットワークを構築する。市内各地にある拠点同士の連携、また南浜地区の復興祈念公園や女川町・東松島市など近隣自治体との連携体制を構築するとともに、各拠点の役割を明確にする。
- ・将来の伝承活動を担う地域の人々に計画段階から検討の場に参画してもらい、各種計画策定後も、施設等の運用開始後も担い手の声を取り込むしくみについても同時に検討していく。



■震災伝承のためのプロジェクトイメージ

※今後議論を深めたい事項

- これからの震災伝承を担う「組織づくりプロジェクト」
- 多様な取り組みを支え、つなぐ「震災伝承拠点整備プロジェクト」
- 石巻南浜津波復興祈念公園と連携し、南浜（祈念公園）・門脇（旧門脇小学校校舎）・日和山を拠点として位置付ける「祈念公園連携プロジェクト」
- 震災の記録・記憶を未来に伝える「記録収集・保存・利活用プロジェクト」 など